

姫路市大塩町、大塩天満宮の氏子の一つ、東之丁地区の屋台が新調され、二十一日、同天満宮で入魂式があった。同地区の屋台全体を新調するのは、氏子の記憶にないといわれ、練り子らは晴れやかな表情で白木の屋台を差し上げた。

屋台は総じてキナドリで、本棟の長さが八・五尺。一九八八年に屋台の上半分を新しくする予定だったが、丸ごと新調するのはこれまでなかったという。

屋根の形や、刺繍の図柄は旧屋台を踏襲。屋根の四隅にある「縁才端」の鏡面に、新たに地区名を入れた。本殿と昨年新調し



新調された屋台を担ぐ練り子ら＝姫路市大塩町東之丁

## 大塩天満宮 東之丁地区が入魂

た露盤は、旧屋台から引き続きいた。早朝に幕雨、見舞われたが、屋台蔵を出発するころには雨も上がり、屋台は水色も濃紺のシテに囲まれて天満宮へ。神事後、屋台が境内を一周し、最後は氏子らが本棟を高く差し上げたまま、跳ねた。

地区の祭礼責任者「清水元」を務める吉田幸生さん(左)は、「若い氏子たちの熱意で新調が実現した。祭り本番でもほかの地区に負けない練りを披露したい」と話していた。大塩天満宮の秋季例大祭は十月十四、十五日。

(広岡磨璃)

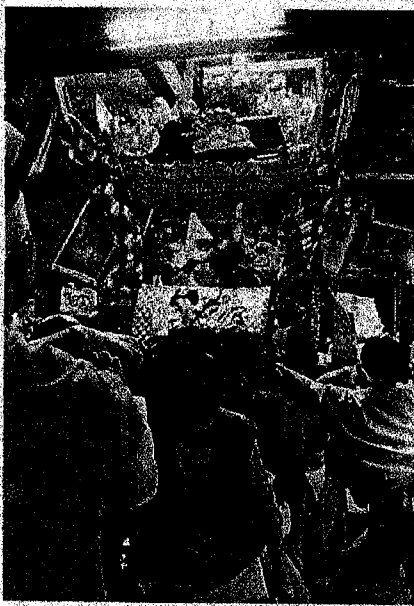


## 地区の歴史 狭間に描く

英賀神社

西浜町

姫路市飾磨区英賀宮町、英賀神社の氏子の一つ、西浜町地区で二十一日、二年前に新調した屋台の完成式があった。慶



押殿で練る西浜町の屋台＝姫路市飾磨区英賀宮町

華な屋台は十月十七、十八日の秋季例祭で初の本番を迎える。同地区は、神社前での職人が手掛け、露盤や漆、黒々とした漆屋根を屋根や飾り金物などを加飾する金物は、町民の平

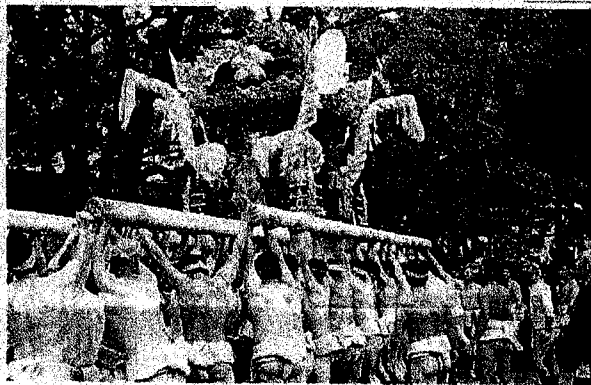
## 姫路3地区 屋台新調・修復し披露

姫路市飾磨区須加の浜の宮天満宮で二十一日、四・一尺長さ七・六尺、氏子の一つ、天神地区の幅二・六尺。新調された屋台修復完成式があったのは練り棒(屋台の下た。泥合や練り棒が一九の部分で、尾州ヒノキを三十四(昭和九)年以来七使用、約三万本がかりで十四年ぶりに新調され、今月上旬に完成した。屋台。練り子たちが勇壮な掛け声とともに「台場差し」(市指定無形民俗文化財)を披露し、住民ら神事に続き、二十四人が両手で約一・五尺の屋

天神地区の屋台は高さ台を差し上げる台場差しを披露。その後も、練り子たちは新しい棒の感触を確かめるように屋台を担ぎ続けた。

祭典委員長の水田裕一郎さん(左)は「町のシンボルの新調は感慨深い。祭りに向け、みんなの意気込みも新たになった」と話した。秋季例祭は十月八、九日。(中西幸太)

## 浜の宮天満宮 天神は74年ぶり



一新された練り棒を差し上げる練り子たち＝姫路市飾磨区須加

縁を頼い、フクロウ(不苦勞)やクシヤク(苦を弱める)なをかたうっている。狭間には英賀ゆかりの歴史物語の場面をあしらひ、伊達綱はシテ棟にちなんだタイタイ色で、播磨初の色といふ。

神事後、屋台は英賀神社へ。押殿の中で勇ましく「ヨイヤサー」と掛け声を響かせた。自治会長の上山末広さん(左)は「わが町に大きな宝物ができた。本番では練り合わせて勇姿を披露してほしい」と話していた。

(神谷千晶)